

自覚を持って学習を

—自覚なくして学力向上なし、希望校合格なし—

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：学習をするときに一番大切なことは何ですか。

A：(林明夫：以下省略)自覚を持って学習することです。自覚なくして学力向上なし、希望校合格なし。そう断言できます。

教育の成果を決定する要因は何かというと、本人の自覚と教師の力量だと私は考えます。どんなに力量のある先生に教わっても、本人の自覚がなければ、教育の成果は期待できません。

自覚を持って学習することが大切です。

Q：自覚とは何ですか。

A：自分自身の立場をよく認識する、わきまえることです。例えば、中学校 3 年生や高校 3 年生は来年 1 月から 3 月に入学試験がありますので、受験学年です。受験学年の生徒のことを、普通は「受験生」と呼びます。ですから、中学校 3 年生や高校 3 年生は、受験生としての自覚を持って学習すると、学習の成果が期待できます。つまり、学力が向上し、希望校に合格できます。受験生としての自覚がないと、たとえ受験学年の中学校 3 年生、高校 3 年生であっても学力は向上せず、希望校に合格することはあまり期待できないと私は考えます。

中高一貫校や私立中学校を受験する小学校 6 年生についても、同じことが言えます。受験生としての自覚を持って学習する必要があります。

Q：自覚を持って学習すると、学力が向上し、希望校に合格できるのはなぜですか。

A：「学習の成果」は、「学習時間の長さ」と「学習方法を工夫すること」によって決定すると私は考えます。

本人の自覚があれば、つまり、自分は受験生であると自覚すれば、希望校に合格するためには学習時間を長くしなければと考えます。長い時間学習することが大切だとわかりますので、進んで長い時間学習するようになります。自分は受験生であると自覚すれば、どうしたら学力が身に付くか・希望校に合格できるかと考え、学習方法を創意工夫するようになります。

例えば、二宮金次郎さん(二宮尊徳先生)は、勉強をして家族の生活を支えなければという自覚がありました。夜は油代を節約するために学習することが禁じられたので、山へたきぎを取りに行く往復の道を歩きながら、本を読んで学習しました。

たきぎを背負いながら本を読んで学習している二宮金次郎さんの像は、本人の自覚があるため、

学習時間の長さを確保し、また、学習方法を工夫している姿をあらわしている素晴らしい事例だと、私はつねづね思っています。

Q：受験学年以外はどうしたらよいのですか。

A：自分は小学校○年生だ、中学校○年生だ、高校○年生だ、大学○年生だ、短期大学○年生だ、専門学校○年生だ、大学院修士○年生だ、大学院博士○年生だという自覚を持って学習することです。その学校の○年生だという自覚を持って学習することで、学力の向上が期待できます。自覚を持って学習すれば、学習時間が長くなりますし、学習方法も自分なりに工夫しますので、学力は必ず向上します。

自覚がないと学習時間はどんどん短くなりますし、学習方法も工夫しませんので、学力は向上しません。学力はどんどん下がり、学習が停滞します。

学習時間が不足し、学習の仕方がよくないと、その学年の内容を理解できず、定着もしませんので、普通は成績が下がります。そういう人は受験学年になった瞬間に自覚するということが少ないため、本格的な受験勉強をスタートする時期が大幅に遅れ、希望校への合格も遠のくこととなります。

Q：塾長は何が言いたいのですか。

A：中高一貫校や私立中学校を受験する小学校 6 年生、高校を受験する中学校 3 年生、大学等を受験する高校 3 年生は、本日、只今、この私の文章をお読みになった瞬間から、自分は来年の 1 月～ 3 月に入学試験を受ける受験生であると自覚すべきです。自分は受験生であると何回も、何回もはっきりと自分に言い聞かせて、今日から自覚を持って学習すべきです。

受験学年以外の人も、自分は○○学校○年生であるという自覚を今日からはっきりと持って学習すべきです。学力を向上させたい・希望校に合格したいと希望する人はすべて、今日から自覚を持って学習すべきだ。私が皆様をお願いしたいのは、これだけです。

Q：自覚を持つためにはどうしたらよいのですか。

A：自分は何のために学習するのかを、自分の力でよく考えることです。受験生は、入学試験に合格して進学を果たした学校で何がしたいのかを、自分の力で考えることです。進学を果たした学校を卒業したあとは何をするのかを、自分の力で考えることです。社会に出て何をするのか、どのような人生を歩みたいのかを、自分の力で考えることです。自分のため、みんなのため、社会のために自分は何ができるのかを、自分の力で考えることです。

受験学年以外の皆さんも、自分の力でしっかりと考えて下さいね。

自覚を持つということは、将来のことを自分の力でしっかりと考える、つまり、「志(こころざし)」を高く持つことです。

Q：志を高く持つにはどうしたらよいのですか。

A：新聞を毎日じっくりと読んで、世の中のことをよく知り、自分の力で考える力を身に付けること。教科書に出ているようなしっかりとした本を何回もじっくりと読んで、思慮深さを身に付けること。

いろいろな人のお話を聞いたり、いろいろなものを見たりして、自分の力で感じ、考える力を身に付けること。広く世界に目を開き、自分の人生を考えることが、志を高く持つことに直結します。

あせることはありませんが、教科の学習のほかにも志を高く持つ取り組みを自分自身でして下さいね。

Q：最後にお聞きします。効果の上がる学習の方法は何ですか。

A：開倫塾の「学習の 3 段階理論」にすべて示してあります。お役に立つと確信します。ぜひ参考にしてください。

「新しい学年を迎えるにあたって、小学生は小学生としての、中学生は中学生としての、高校生は高校生としての自覚を持って学習に励みましょう。」

以上

— 2012 年 3 月 16 日林明夫記 —